

若草の萌えるころ (1968)

TANTE ZITA
ZITA

メディア 映画

ジャンル 青春 ドラマ

製作国 フランス

色彩 Color

時間 94分

初公開日 1969/03/19

公開情報 U N I

【解説】

近所の少女にピアノを教えていたジタ伯母さんはその日、正午のサイレンを聞きめまいを覚え、そのまま倒れた。姪のアニタが帰宅した時には既に昏睡状態で、医師ベルナールの診断によれば、卒中でもう先は長くないという。アニタは母と二人懸命に看病の日々を送る。が、身近に迫る死の恐怖に耐えかね、ある晩、彼女はBFのバスケットの試合を見た帰り、家に足が向かなくなり、怪しい人影から逃れるままに夜のパリを彷徨う。ふと入った評判の遊技場。バンドのベーシストの青年がミニカー・レースに夢中になっていた。彼女は横転した彼の車をコースに戻してやる。店には友人の文学青年ジェームズがいた。彼は、彼女が田舎の牧畜業者ボニにハントされている所に割って入り、やって来た聖書売りを交えて信仰談義を闘わす。アニタはそこから逃げ出し、再び夜の町へ。そして、猫狩りのスペイン人労務者を止めようとして、彼女も警察の厄介に。ジタ伯母も、政治運動で還らぬ人となった父もスペイン人であった。身元引請人としてやってきたベルナールはクラブに誘って彼女の気を紛らせる。羊を載せた車で彼の車と衝突して大騒ぎを起こしたボニとジェームズも一緒だ。ベルナールは電話でジタが既に息を引き取ったことを知ったが、彼女をそのままにして自分だけ戻る。夜も更け、ボニに送られ帰ったアニタはやはり自宅に入れず、再びクラブへ。もう店は看板で、先程のベース弾きと会って、住まいは郊外だと騙してドライブをするが、急に違う車を拾ってパリへ戻りかける。と、青年は必死でこれを止め、彼女が昔住んでいた田舎の家へ向かう。そこで二人が愛し合ったのは少女の夢で、現実はそのアパートマン。眠る彼を残して自宅に戻ったアニタは伯母の死を知るが、不思議と心安らかに、田舎で彼女と隠れん坊をした少女の日々を思い出すのだった。アンリコの詩情溢れる珠玉の青春映画。スペインのギター古謡の響きが静かに感動の余韻を深める。

【クレジット】

監督	ロベール・アンリコ	Robert Enrico	
原作	リュシエンヌ・アモン	Lucienne Hamon	
脚本	リュシエンヌ・アモン	Lucienne Hamon	
	ロベール・アンリコ	Robert Enrico	
	ピエール・ペルグリ	Pierre Pelegri	
撮影	ジャン・ボフェティ	Jean Boffety	
音楽	フランソワ・ド・ルーベ	Francois de Roubaix	
出演	ジョアンナ・シムカス	Joanna Shimkus	アニー
	カティーナ・パクスヌー	Katina Paxinou	ジータ伯母さん
	ホセ・マリア・フロタツ	José Maria Flotats	シモン
	ベルナール・フレッソン	Bernard Fresson	ボニ
	ポール・クローシェ	Paul Crauchet	ベルナール
	シュザンヌ・フロン	Suzanne Flon	イヴェット

